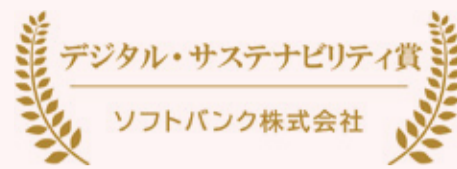


高校

「自由すぎる研究EXPO 2024」で 生徒2名が「金賞(称賛団体賞)」を受賞



2024年2月～8月に開催された「自由すぎる研究EXPO 2024」において、高校3年理数キャリアコースに在籍する鏡 妃順さんと塚越りまさんが行った研究が、「金賞(称賛団体賞)」を受賞しました。

本大会は日本探究部(株式会社トモノカイ)が運営する全国の中高生を対象とした探究コンテストで、今年度は全国から計3,857件の応募がありました。

そして、8月16日、同団体の公式ホームページ上で受賞作品が発表され、本校の鏡さんと塚越さんの研究「アイトラッカーを用いた集団演技視聴時の視線解析」が「金賞(称賛団体賞)」の一つである、「デジタル・サステナビリティ賞(ソフトバンク株式会社)」を見事に受賞しました。この賞はデジタル技術を活用して持続可能な社会や環境に最も貢献する研究に与えられるものです。

受賞生徒のコメントを右に掲載します。

生徒コメント

鏡 妃順さん(3梅)

研究を通して自分自身の身近な疑問の生体情報の測定、解析を行うことで、解決に繋がりました。解析方法ではかなり試行錯誤を重ねたので、結果を導き出せたときは達成感を感じました。その結果、今回の大会では活動意欲や独自性を評価していただけて光栄に思います。

...

塚越りまさん(3萩)

この度、このような大きな賞をいただけて大変嬉しく思います。2年生から研究を始め、今に至るまで努力続けた甲斐がありました。そして、協力してくださった先生方と友人、ありがとうございました。



塚越さん(左)と鏡さん(右)

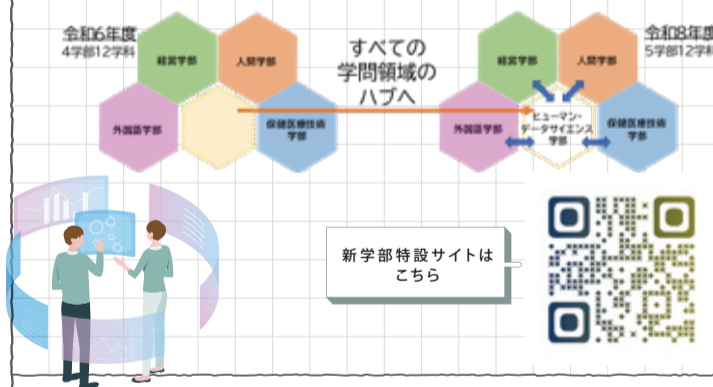
大学

「ヒューマン・データサイエンス学部(仮称)」の 2026年4月設置を構想中

本学では、2026年4月に本学初の文理融合型教育を行う「ヒューマン・データサイエンス学部(仮称)」の設置を構想しています。

建学の精神「自立と共生」をもとに、「人と人、人と地域、人と自然の共生社会」の創造を目標に掲げ、データサイエンスに関する教育・研究を通して、ステークホルダーとのコミュニケーションから仮説を導き、その仮説にデータ分析の視点でアプローチし、社会課題解決に貢献できる人材の養成を目指します。

新学部は、既存の4学部(外国語学部、経営学部、人間学部、保健医療技術学部)の知見を生かし、データサイエンスを軸としてそれぞれの学部のハブとなり教育を行っていきます。



大学院

本学初の秋入学がスタート 看護学研究科・福祉医療マネジメント研究科 「2024年度 秋季入学式」挙行

本学初となる大学院の秋入学が今年度よりスタートしました。そして、9月14日、看護学研究科1名、福祉医療マネジメント研究科(専門職大学院)9名の新入生を迎えて「2024年度 秋季入学式」が本郷キャンパスにて執り行われました。

入学式では、福井勉学長が創立者島田依史子先生の建学の精神「自立と共生」について触れ、さまざまな体験や決断を繰り返しながら自立した自分自身を形成することの大切さ、自分とは異なる考え・行動・感情・環境や社会を受け入れることの大切さなど、新入生を激励する告辞を述べました。さらに、教員代表の紹介後、看護学研究科委員長横田素美教授と福祉医療マネジメント研究科委員長の亀川雅人特任教授から祝辞が贈られました。在学生からは、松川千夏さん(福祉医療マネジメント研究科1年)が歓迎の言葉を述べ、新入生が「My Statement」として、本学で成し遂げたい夢や目標を表明しました。

社会人のリスクリングの必要性が注目される中、本学でも忙しい社会人が学びやすい環境を整えるために、今回の秋入学を新たに設定することとなりました。今後も6つの研究科を中心にさまざまなプログラムの開発に加え、公開講座なども積極的に展開し、リスクリングの支援と学びの場の提供に努めていきます。



入学式の様子



秋入学の新入生と関係者

GREEN SPIRITS



「幸せ」と「科学」

副学長・人間学部教授
中山智晴

4月に副学長を拝命しました。宜しくお願いいたします。学校法人文京学院は2024年10月、創立100周年を迎えます。2026年4月には、新学部「ヒューマン・データサイエンス学部(仮称)」が誕生する予定です。次の100年を見据え、文京学院は大きく羽ばたいています。ここでは、本学初の文理融合型学部に関し、個人的な思いをお話いたします。

私は工学系の出身です。学生時代は、科学技術の発達

は人間にとって幸せをもたらすと考えていました。1950年を人口爆発の年などと呼ぶことがありますが、急激に増え続ける世界人口、それを支えるエネルギーの安定供給の問題もあり、1951年に米国で世界初の原子力発電が、日本においては1963年から利用が加速していきます。ウランの核分裂を利用して発電する原発は、メルトダウンのような人間が完全に制御できない課題を多く抱えており、安心・安全に対し危惧する研究者も多くいました。人間の生活を楽しむ科学技術、それを支えるエネルギー、エネルギーを大量に生み出す科学技術の開発、私たち人間は、「幸せ」を享受するために「幸せ」を失うという負の無限ループに入り込んでしまったのでしょうか。そもそも「幸せ」とは何かを考えさせられます。アインシュタインは晩年、自身の科学的創造が原爆利用に生かされたことに苦しみつつ、全世界で核兵器を禁止するようにと激しく主張するようになりました。

そして、「第三次世界大戦でどのような兵器が使われるかは分かりませんが、第四次世界大戦はこん棒と石で戦われるでしょう」との言葉を残しています。

新学部では社会の事象をデータ化し、データに隠されている課題の解決法を、数学と統計、分析、人工知能(AI)、機械学習を組み合わせる明らかにし、社会課題を解決に導く計画策定を行える人材育成を目指しています。新学部で大切なことは、知識や技術の獲得だけではなく、人間の真の幸せについて、自分なりの創造性を持つことであると考えます。知識には限界がありますが、想像力と実効性がこれからの世界を救うように思えます。人も自然も共生する社会創造を見据えた新たな学問領域、これこそが本来の人間味のある科学なのだと考えます。

新学部の学生が、未来を創造しながら語り合い学び合う姿を見ることは大きな楽しみであります。

大学 「五街道ウォーク2024 in 甲州街道」開催

「五街道ウォーク」は2年に1度、旧街道をリレー方式で歩行する文京学院大学の伝統行事です。学生実行委員会が中心となり企画・運営を行っています。

今年度は前回(2022年)に引き続き、旧甲州街道を8月27日、8月29日～31日の4日間、神奈川県小原宿から小仏峠、八王子、日野、府中を経て日本橋でゴールを迎える4区間のコースで計画を立ててきました。本学学生・教職員、交流を続けている岐阜聖徳学園大学、東洋学園大学学生など、延べ100名を超える参加者を予定し、当日を迎えました。折しも台風10号が上陸し、進路や天気予報を睨みながらの難しい運営となりました。1区・2区は大雨の中、コースを短縮するなどの措置を行いながら実施をすることができましたが、後半の3区・4区については、台風の影響によりやむなく中止となりました。他大学との交流が叶わなかったことや、100周年を迎える記念の年としてこれまで準備を進めてきた学生実行委員には残念な結果となってしまいましたが、前半の参加者からは「多くの参加者と交流でき貴重な体験ができた」「雨の中歩くのは疲れたが達成感があった」「様々な会話から視野が広がった」等の感想が寄せられました。

PHOTO GALLERY フォトギャラリー



代表学生からのメッセージ

1・2区
区長

五街道ウォーク実行委員会 委員長 神田凌輔(経営学部4年)



神田さん

五街道ウォークの設立から30周年を迎えた今回は節目の年でありました。しかし、台風の影響によりイベントの開催内容を当初予定していた計画から変更して実行しないといけなくなりました。台風により、思い通りにイベントを実施できなかったのは残念でした。今回の本番を通して臨機応変に対応することの難しさと大変さを体験し、不測の事態に対応する力を身につけることができました。厳しい状況の中で協力してゴールまで歩くことができたのは良かったです。大変でしたが、最後までやり切った達成感を味わうことができました。

3・4区
区長

五街道ウォーク実行委員会 副委員長 中西一翔(経営学部4年)



中西さん

3・4区のコースづくりで苦戦したことは、都内が舞台で身近な場所を通ることもあり、参加者の方がただ歩くだけにならないための工夫をしないといけなかったことです。少しでも楽しく、学びのあるイベントにしようと委員会全体で知恵を絞り、行程に落とし込む過程は面白かったですし、唯一無二の経験だったと思います。本番が実施できなかったのは残念ですが、貴重な体験ができるこの活動が今後も続いていくことを願っています。

特集

注目のトピックス

Topic 文京アカデミー「子どもアカデミア」本校で特別講座を実施

01

7月26日

「立体地図をつくってみよう」



8月6・7日

「人工イクラ(アルギン酸ボール)をつくろう」



「クールアースフェア2024」にまちラボ・エコプロジェクトの学生6名が参加活動実績と大学生の環境意識調査結果をブース出展

Topic 02

8月10日



Topic 「国際連携教育プログラム」開講式を実施
アメリカ、トルコ、ウズベキスタン、カザフスタン、ブルガリアから合計20名の留学生が来日

03

8月23日



東京都立赤羽北桜高等学校 文京学院大学
包括連携協定 締結式

都立赤羽北桜高校との
高大接続に関する
協定締結

Topic 04

9月17日

Topic 05

9月24日

フォーバル社による本学での寄附講座 国際ビジネス特講「DXマネジメント概論」が2024年後期に開講

Topic 06

10月5日

文京ecoカレッジ「環境ライフ講座」に人間学部中山智晴教授が登壇

BUNKYO GAKUIN 100TH ANNIVERSARY TOPICS SINCE 1924



文京学院創立100周年に寄せて
～お祝いメッセージのご紹介～



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟
顧問・前理事長
文京学院大学
名誉教授
元教授・副学長
野口 昇 氏

文京学院創立100周年誠におめでとうございます。ご縁を得て私も本学で教鞭をとらせていただき、島田輝子学長(当時)をはじめ多くの方々から大変お世話になりました。改めて厚く御礼申し上げます。私は国連職員としてUNESCOで長く働いてきました。パリのユネスコ本部では世界中から採用された職員と一緒に働いています。どうして仕事が成り立つのか不思議なほどでしたが、やはり論理は万人に共通するからだと思いました。ただ論理だけでは仕事は出来ません。誠実に向き合い他者から信頼を得ることが大切なこととはどこでも同じです。いま世界は分断と混迷を深めています。地球市民としての「自立」と「共生」が、今ほど求められている時はありません。文京学院が建学の精神の下、100年の輝かしい実績の上に、さらなる発展を続けられることを心から祈念いたします。

「学校法人文京学院創立100周年記念特設サイト」では、多くの関係者や卒業生からのメッセージ動画をご紹介します。ぜひ御覧ください。

